第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	宮本ゼミ	チーム名	海洋プラスチック
タイトル	紙はプラスチックの代替物となり得るのか		
テーマ群	g)その他		
メンバー	關健志郎、春藤佑太、有元望咲、諏訪孝太、山本勇道、北村駿典		
研究計画内容	［研究背景］ 近年、海洋プラスチック問題が大きな問題となっている。これはプラスチック製品の増加や使い終わったプラスチック製品のポイ捨て、不適切な処分、台風や水害により海に流れ着いたことなどが原因で起こる問題であり、このプラスチックごみの影響で様々な海洋生物に甚大な被害が出ている。プラスチック製品による海洋汚染の被害を減らす方法として、プラスチック製品自体の使用頻度を減らす取り組みが行われている。しかし、プラスチックの代替として紙製品を使用することはプラスチックごみによる海洋汚染を減らすことができるというメリットがある一方で、長時間の使用に不向きな点やコストが高いなどのデメリットが存在する。そこで、我々はストローに着目し、どうすればプラスチックではなく紙製ストローが使いたくなるのかというテーマで研究を行う。 ［研究内容］ 本研究では、仮想評価法（CVM）を用いて、紙ストローに対する支払意思額を明らかにし、どうすればプラスチックではなく紙製ストローが使いたくなるのかを明らかにする。仮想評価法（CVM）とは、環境変化に対する支払い意思額受入補償額を直接人々に尋ねる表明選考法である。紙製ストローとプラスチック製ストローにどのくらいの支払意思額があるのかを比較し、紙製ストローを使用することで守られる環境価値を調査する。 ［期待される成果］ 分析結果から人々が海洋プラスチック問題に向き合い、プラスチック製品ではなく紙製品のような他の製品を選択してくれるようになるのかを明らかにする。そして、紙製プラスチックの普及拡大に効果的な方法や政策について検討し、紙製ストローの拡大を通じて海洋プラスチック問題解決への一助となることが期待される。 ［参考文献］ 栗山 浩一・柘植 隆宏・庄子 康『初心者のための環境評価入門』勁草書房，2013 年		